



令和6年度 第2回共同機構研修会(動画配信)

保育場面における発達特性の理解～子どもの困りを理解しよう～

講師：岡崎 達也さん(公社)京都市児童館学童連盟事務局主任厚生委員統合育成担当



発達障がいの子どもは、脳の情報処理の仕方が、定形発達の子どもと違う。そのため気になる行動となって表れていることがよくある。特徴として、①目で見えることは得意、②注意が向くところが狭い、③感覚の入りが違う、④独特な理解の仕方をする、⑤自分自身のコントロールが苦手、⑥他者の気持ちに気付きにくい、ということが言える。それらの特性を理解した大人の対応や良きパートナーとしての友達の存在、そして生活空間・生活時間の構造化を整えることで、困った行動にはつながらない。

発達凸凹 + 適応障がい = 発達障がい だと言われている。

故に、適応障がいを起こさせないことが重要だ。乳幼児の時期に、その子の特性を理解し、うまくつきあえる術を共に探っていくことが、大きな支援となる。

子どもの行動には必ず意味がある。特性のある子どもは、意図せず注意を受ける行動をとりがちで、褒められる場面も必然的に少なくなる。良いところを見つけ、肯定的な言葉がけに留意してほしい。

DVD貸出中

アンケートより

- ・今回は貴重な機会をありがとうございました。自分のクラスにも個別に支援が必要な子どもがいるものの、集団の中でどのように関わっていけばよいのか迷っていました。発達特性について学んだことで、子どもの困りについての理解が深まり、関わりのヒントを得ることができました。
- ・子どもの姿を困ったと捉えるのではなく、子どもの不安感や子どもの困りを理解しようとするのが大切であることがわかりました。次は、教師の援助から子どもがどのように変わったのかも具体的な事例などでお聞きしたいなと思いました。
- ・保育体制が厳しく、日中の研修にはなかなか出られないので、今回のような動画配信の研修を増やしてほしいです。
- ・動画配信にいただいたことにより、研修に出られないパート職員も講義を受けることができました。

